

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年5月13日

【評価実施概要】

事業所番号	22874002278		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路高岡		
所在地	(〒670-0085) 兵庫県姫路市山吹1丁目3番25号 電話 079-299-5107		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菰乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年5月13日

【情報提供票より】 [平成21年1月20日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	6人	(常勤6人) (非常勤1人)	/ 常勤換算6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上3階建て建物の 2階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	6,000円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ (無)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり		900円	

(4) 利用者の概要 (平成21年1月20日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性0名) (女性18名)		
要介護1	6名	要介護2	3名
要介護3	9名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均88歳 … (最低82歳) (最高89歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 鋼島会厚生病院	段齒科医院	岡本内科
---------	----------------	-------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

評価訪問において、入居者の安心感に満ち溢れた笑顔が印象に残った。管理者は看護師でもあり、医療面において、家族はもちろん、職員たちにとっても心強い。ホームは、いつも利用者・職員の会話と笑い声が絶えず、ごく自然に温かな家庭の雰囲気が出来上がっている。利用者は、それぞれの役割を果たすことで自信につなげ、また、利用者同士でも思いやり(家族として、互いを気に掛け、助け合う気持ち)を持って暮らしている。利用者から職員に対しての労いの言葉からもそれらを感じる。近隣の友人が入居者を訪ねて来るとも多く、これも、職員の地域密着型サービスへの取組みの努力あつてのものと思う。正月には、ホームでおせち料理を手作りして家族を迎えるなど、行事・レクリエーションにも心遣いがなされている。 ◎添付の資料写真も参照

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ケアの質の向上に向け、3名が「認知症サポーター育成講師(キャラバンメイト)」の資格を、また、3名が「認知症ケア専門士」の資格を取得し、ケアに活かしている。カンファレンスにおいては、家族の訪問時にコミュニケーションを取り、問題点の整理や意向の把握をできるようにした。ケア記録の簡素化も、記載方法を工夫することで改善されつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 全職員で自己評価をし、管理者がそれをまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームでの暮らしについての報告、外部評価結果の報告、議題についての話し合いのほかに、協力医による講演会やボランティアによるお楽しみ会なども盛り込むなど、地域住民、利用者、家族も参加しやすいようにしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の訪問時には、職員同士で協力し合い、その時間を作り、家族が意見や要望を出しやすいよう雰囲気作りを心掛けている。運営推進会議等での家族の意見は、業務へ反映させている。今後は、家族の意見・要望を引き出しやすくするための工夫として、家族だけでの話し合いの場も設けるなどしてゆきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 職員も、入居者も、地域の行事だけでなく、日頃から、散歩時に挨拶を交わす…友人が気軽にホームに立ち寄る…地域住民と共に清掃活動を実施する…等々の交流が、ごくあたりまえになされ、地域の住民として関わりが築かれている。

◎地域とのつきあい

評価訪問当日も、ホーム近くに住む友人が訪ねて来られた



◎家族等への報告

アルバムも作成し、日々の様子を伝えている



◎食事を楽しむことのできる支援

食事の後片付けも協働で



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

協働作品(わらじ)



◎居心地のよい共用空間づくり

手作りのカレンダーと  
職員・利用者のウエルカムボード



◎居心地よく過ごせる居室の配慮

入居者の居室は、各々の好みに合わせて







▲ホーム外観



▲玄関のウェルカムボード



▲川沿いの散歩道



▲玄関の飾り付け

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑みがこぼれる家庭 それが私たちの誇りです」を基本理念に掲げ、常に原点に立ち返り、地域の中で楽しく、その人らしく暮らしていただくことを目標に支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人(ほおずき)本部が主催する各種研修も多数開催され、常に基本理念に帰る姿勢が見られる。利用者の個性を大切にしながら、その人らしい暮らしの継続を目指し、理念の実践に向け様々な働きかけをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事には必ず参加し交流を深めている。ホームの行事に地域住民が参加することも多く、また、特に行事が無くても、近隣の友人がホーム入所者を訪ねることも、よくある光景である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人(ほおずき)本部を含め、全職員が自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、課題については様々な工夫をしながら、具体的に改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、できるだけ利用者や家族の参加がしやすい内容となるよう工夫しながら、様々な報告や話し合いをしている。協力医による講演会はとても好評であり、認知症の理解にも繋がった。	○	家族の意見をサービス向上へ活かせるよう、家族だけでの話し合いのできる機会も設けるなどの工夫を検討中とのこと。より家族との連携が深まるよう、それらの取り組みに期待する。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護保険課からの協力要請で「認知症サポーター養成講座」を開催した。グループホーム連絡会でも管理者が役員を務め、グループホームの質の向上のために、市介護保険課と積極的に連携している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に「高岡便り」を発行し、ホームの暮らしや行事を写真入りで伝えている。季節に合わせた家族に対する健康管理の情報なども発信している。また、アルバムも作成している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にあわせてカンファレンスを実施するなど、意見や要望を出しやすい雰囲気作りを心がけている。運営推進会議に多くの家族に参加してもらえよう声かけを行っている。会議の意見を集約し業務運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「馴染みの関係」の大切さを理解し、職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。日頃からマイチャレンジ(職員それぞれの目標管理)を通じ、各職員に応じた指導を行ない、やりがいの持てる職場環境づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人(ほおずき)本部が主催する研修も多数開催している。キャラバンメイトや認知症ケア専門士の資格取得など職員のスキルアップの意識も高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などを通してネットワークづくり、情報交換を行ない、サービスの向上につなげている。	○	地域の同業者だけでなく、他の地域のグループホームや、他の介護サービス事業所とも交流の機会を作ってほしい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には「入居のまとめ」「バックグラウンド」を活用し、本人と家族に十分な説明と聴き取りをし、納得を頂いた上で、サービスを開始できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の1つひとつを、できる限り利用者と一緒にするように心がけ、利用者の“居場所”を考えながら、自立支援につなげている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、これまでの暮らしの様子を詳しく聴き取り、家族の協力も得ながら、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。	○	さらなるサービス向上へ向け、会話記録などから、そのときそのときの利用者の意向を把握するよう工夫してもらえるとありがたい。
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの聴き取り、職員によるアセスメントにより課題を導き出し介護計画を作成している。“全員参加”を徹底する工夫として、会議に参加できない職員に対しては、事前にその会議の要領を渡し、意見を求めている。	○	利用者の「できること」「したいこと」にも着目し、目標指向型の介護計画をチームで作成していただいたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的に(新たな課題発生時には随時に)実施し、現状に即した計画を作成している。家族の意向も計画に反映できるよう、家族の訪問時にケアカンファレンスを実施するなど工夫している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム1階にデイサービスを併設している。利用者がデイサービスの行事に参加したり、デイサービスの利用者がホームを訪問したり、事業所の多機能性を活かし交流を深めている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が協力医の往診や訪問歯科診療を受けており、安心してホームで生活できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方については、利用者・家族の意向を確認し、医療との連携を図りながら、ホームの環境に応じた対応をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護者は利用者の「ひとと言ひと言を傾聴する姿勢」を大切にしている。個人情報取り扱いには、職員全員が十分に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムやペースを大切に、その人らしくゆったりと穏やかな時間が流れるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と相談しながら、できるだけ一人ひとりの好みをメニューに取り入れるようにし、調理や片付けもおしゃべりしながら楽しく皆で一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせて入浴を楽しめるよう支援している。曜日や時間帯を決めず。時には友人と入浴したり、季節湯を楽しんだりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの「できること・できないこと」、「したいこと・したくないこと」を知った上で、利用者一人ひとりが生活の中で役割を持ち、主体的に生活できるよう支援している。わらじ草履を作ったり、洋裁の得意な利用者にミシンをかけてもらったりもしている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中でも事務所内フロア交流や戸外の散歩支援等、意識的に体を動かすよう働きかけながら、利用者の希望に応じて買い物外出や、お花見、バス旅行等を実施している。家族の訪問時には、家族と共に外出することも大きな楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間以外は居室・フロア一・玄関に鍵はかけていない。これまで、特に問題もおこっておらず、利用者も落ち着いて生活できている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は、夜間想定も含め定期的に行なっている。利用者も訓練に参加し、その理解力も把握するように努めている。	○	運営推進会議など通じて、地域の協力が得られるような働きかけを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては利用者の希望も聴きながら献立を考えている。健康管理面からも、しっかりと見直しを行ない、一人ひとりの水分摂取量、排泄状況、食事摂取量の把握ができています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには七段雛飾りが飾られ、玄関や建物の周りには花木が植えられている。菜園では季節野菜を育て、皆でそれを料理することもある。リビングには手作りのカレンダーを、リビング入り口には利用者や職員の笑顔いっぱいの写真を飾るなど、温かな雰囲気づくりを大切に考えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮しながら、利用者の居室には使い慣れた家具や思い出の品を自由に持ち込んでもらい、好きな草花で飾りつけをするなど、その人らしい「自分の部屋」作りができるよう支援している。		

※  は、重点項目。